

議会だより

からうら

No. 38

2007. 1. 30発行

ナイターなどの
使用料を徴収

②

17年度 決算を認定

③

ペットボトル
2月から分別収集

④

議員定数
削減を協議

⑤

6議員
町の考えをたず

⑥

野菜作りが大好き

⑫



万円を可決

31億2,120万円に

補正の主なもの

衛生費 298万4千円
(ごみ焼却場燃料費など)

消防費 250万円
(今山自主防災組織機材購入費)

災害復旧費 2,450万7千円
(町道6カ所など)



4月から使用料が

ナイターなどの使用料を徴収

12月定例会

十二月定例会は十二月十二日から二十日までの九日間開かれ、十八年度補正予算、議員提出の意見書、個人情報保護条例、学校施設の開放に関する条例などを全員一致で可決しました。また、一般質問は六人の議員が登壇し町の考えをたえました。

○ 議案に対する主な質疑

問 学校施設使用料の徴収方法と、使用料が払い戻しされる条件は。

答 前納してもらい、町が主催する行事や天候不良等により、使用出来なくなった場合に払い戻す。

○ 議員提出議案

■ 生活必需品の消費税率引き上げ反対の意見書

◎ 提出先 内閣総理大臣、財務大臣
県選出国會議員

■ 全国森林環境税の創設を求める意見書

◎ 提出先 衆・参両院議長、内閣総理大臣
総務大臣、財務大臣、農林水産大臣
環境大臣、県選出国會議員

全員一致で可決しました。

3,691

予算総額



災害復旧費を補正

○ 総務委員長に対する質疑

問 畑総施設の維持管理とは道路の舗装も含まれるのか。

答 配管や施設の老朽化に対しての維持管理であり、道路は含まれない。

問 事務やIT関係事業の精査とはどういうことか。

答 広域的な事務事業の拡大に伴い、パソコンなどを導入する時は機種選定等に十分な精査が必要という意味である。

平成17年度

一般会計(歳出) 39億3,747万円など

決算を認定

総務産建常任委員会に付託の17年度各会計の決算について、委員長から「留意すべき事項」の意見をつけ認定すべきと報告があり、質疑の後、全員一致で認定しました。

主な留意事項

総務税務課 事務やIT関連事業の精査に努め、効率的な予算執行を。

住民課 ごみ処理問題について、広域処理や民間委託など早急に方向性を示すこと。

産業建設課 畑総施設の老朽化について、修繕等も含め維持管理に努めること。

福祉課 少子化対策として保育所運営、子育て支援対策の一層の充実を。

教育委員会 学校給食について地産地消に努め、食育指導にも積極的に取り組むこと。

勝浦病院 医師、看護師の確保に向けて雇用条件も含めた努力を。

18年度 地方交付税割増し

人件費削減などの行財政改革の成果が認められ、勝名町村で最高額の割増し交付がありました。

各町村の割増し額

- 勝浦町 7,566万7千円
- 上勝町 35万6千円
- 佐那河内村 50万2千円
- 神山町 3,165万6千円
- 石井町 ▲373万3千円

総務産建常任委員会

風力発電 二十年から 運転開始予定

十一月十六日、十二月四日に委員会を開き補正予算と条例改正、陳情二件を審議しました。また、風力発電施設予定地の現地踏査を行いました。

参事より 勝浦町個人情報保護条例について説明がありました。

問 情報公開条例と相反する個人情報保護条例は十分機能するのか。

答 参事 条例の範囲で判断しないが、保護審査会でも協議する必要があると思う。

問 審査会委員にはどんな人を選任するのか。

答 参事 弁護士、役場OBなどを考えている。

風力発電施設は勝浦町、上勝町、佐那河内村に計十五基設置される。勝浦町では横瀬財産区所有地に三基の計画で十九年に着工し、二十年二月ごろから運転の予定と説明を受けました。

陳情処理

◎坂本グリーンセンターリズム運営委員会への行政支援と、都市農村交流事業等への補助金の確保と助成について。(採択)

◎勝浦川バラス浚渫(しゅんせつ)について。(継続審議)

委員会として 補正予算、条例については十二月定例会に上程することに同意しました。



風力発電のイメージ写真

委員会ハイライト

文教厚生常任委員会

ペットボトル 二月から分別収集

十二月五日に委員会を開き、一般会計補正予算、学校施設の開放に関する条例や保育料改定などを審議しました。

住民課長から 補正予算等の説明がありました。

問 ペットボトルの収集はいつからか。また、説明会はするのか。

答 住民課長 一月に工事が完了し、二月から収集を始めた。要望があれば説明に向いて行く。

教育委員会事務局長から

学校施設については、四月から午後八時以降は使用料を徴収するとの説明がありました。

問 使用料の金額設定は適当か。

答 教育委員会事務局長 コストを基に積算しており、他の市町村より安くなっている。

福祉課長から 保育料基準額表改定について説明がありました。

問 改定すると保育料はどうなるのか。

答 福祉課長 現在の入所者百三十三人で、二十四万六千円の増となる。

委員会として 十二月定例会に上程することに同意しました。



工事中のペットボトル処理場

議員定数削減を協議

全員協議会

前回の町議選が無投票で、町長選、県議選も無投票が続いたことから、住民が代表を選ぶ機会が失われている。また、町財政が厳しさを増す中で、議員数を削減すべきでないかと大西議員から問題提起があり協議しました。

主な意見

反対

他町村に先がけて二回連続で削減を行っている。議会活動や地域性を考えてもこれ以上削減する必要はない。

賛成

自治法の改正によってすでに地域性は崩れており、議員は広い視点で活動すべきだ。

◎今後も協議を重ねて行くことになりました。



平成15年 12人



昭和46年 18人

— 今までの議員数削減 —

昭和30年

合併特例により
横瀬選挙区 十三人
生比奈選挙区 十三人
計二十六人

昭和33年
12月25日

二十六人を二十人に可決

昭和45年
3月28日

二十人を十八人に可決
議案提出者 佐藤寿治
四十四年に二十人を十六人にする提案をしたが、継続審査となり十八人にして可決した。

昭和58年
12月22日

十八人を十六人に否決

議案提出者 滝口良一

昭和61年
6月12日

十八人を十六人に可決

議案提出者 岡本富治

平成11年
3月30日

十六人を十四人に可決

議案提出者 溝田義昭

平成15年
5月6日

十四人を十二人に可決

議案提出者 川端雅夫
国清 榮・溝田義昭

東部広域農道 進ちよく率と六工区の着工は

七工区完了後に（産業建設課長）

森 敏治 議員



ちよく増である。

六工区は、既に用地買収と設計が完了している七工区の工事完了後と予想されるが、県には関係者の意向を伝えたい。

問 広域農道の工事概要と進ちよく状況は。また、六工区の一日も早い着工を関係者は切望しているが県の考えは。

答 倉坪産業建設課長

勝浦町分は、九千三百八十mのうち七千四百二十六mが出来ており、進ちよく率は七十九・二%となっている。十八年度は約六%の進

問 この農道は一市三町村が関係した事業であり、九割が補助の有利な事業である。これを活用しなければと考えているが、町長の考えは。

答 町長

工法の変更等により必要最小限の経費で、平成二十五年の完成を目指して取り組んでいる。

東部広域農道 四工区の草刈りと 関連町道の補修を

傷みの激しい所は
町単で（産業建設課長）

問 四工区は以前に舗装をしたが、今は樹木、竹、雑草などが生い茂っている。

また、町道黄檗線はこの工区の工事のために非常に傷んでいる。県に舗装を要望したがまだ実現していない。県の考え方は。



進ちよく率79%の東部広域農道

答 倉坪産業建設課長

草刈りについては県に要望している。傷みの出ている町道についても随時舗装の要望はしているが、特に路面状態の悪い黄檗橋周辺は、今年度町単事業で補修したい。



倉坪産業建設課長

辺地対策事業の 復活を

着手するのは
難しい（町長）

問 辺地対策事業は平成七年度までは坂本と与川内で毎年交互に行われていたが、今は全く工事が実施されていない。十九年度予算で復活させてはどうか。

答 戸川 参事

平成十六年度から五年間坂本と与川内の一部が指定地域となっているが、現在、周辺地域と比較しても大きな差がなく、全体的な事業効果を考えると慎重にならざるを得ない。

答 町長

現在の財政状況や投資効果、また、緊急性を考えれば、事業に着手するのは難しい状況である。

十九年度予算の規模は

三十億円程度に（町長）

中西晴美 議員



優先的に予算配分したい。

十八年度の決算見込みが三十億七千七百万円程度なので、今年度並みの三十億円くらいにしたいと考えている。

答 戸川 参事

定率減税の廃止や

税源移譲で一億円程度税収は増える見込みだが、交付税の状況が不透明なので、過疎債を中心に事業を進めて行きたい。

問 町長

地方交付税の見直しも大きな判断材料になるが、なるべく基金の取り崩しを少なくしたい。予算編成に当たっては住民生活に直結するものに配慮しながら、緊急性、必要性の高い事業に

近い将来に

病院の改築を

院内で十分協議したい
（病院事務局長）

問

病院への繰入金に対する町長の考えは。

また、減価償却費の積立金が五億円程度あるので、近い将来に改築を考えるべきだ。

答

幸野病院事務局長

改築については院内で相談出来ていないので、今後、十分協議したい。



幸野病院事務局長

答 町長

建設費の償還金七千万円と

運営費の一部を繰入れているが、病院存続は町民の熱い思いなので、今後とも存続に向け取り組みたい。
改築については現在の建物の償還が残っており、町の財政状況や病院の経営内容等十分考慮し決定したい。

教育基本法

改正の影響は

問

今回の法改正で町の教育方針に変化はあるのか。また、いじめ問題に対する取り組みは。

答 教育長

教育基本法改正の影響

は不透明な部分が多いが、現行法の理念が大きく変わることはないと思う。
いじめ対策としては、再三学校へ行き授業中教室で生徒の動きなどを見ている。また、指導体制、教育内容、

どうなる

高齢者医療費

問

健康保険法の一部改正で高齢者の医療費はどう変わるのか。

答 戸川 参事

七十歳以上で現役

並みの所得がある人は、十月から二割負担が三割になっている。一般の人は、七十歳から七十四歳までは平成二十年から一割が二割に、七十五歳以上の人は一割になる。また、一カ月の自己負担の限度額も引き上げられるなど、負担増が強いられる。



生徒指導を充実

新規就農者の支援策は

経営準備資金を助成

(産業建設課長)

川端雅夫議員



どうなる

県道柳原工区

十八年度中に一部
着工(産業建設課長)

問 柳原工区はもうすぐ入札の予定と聞くが、地元関係者との協議は全て終了したのか。

また、沼江バイパスは用地交渉がまとまった所から着工すべきではないか。

答 倉坪産業建設課長

問 十七・八年のインターン、Uターンを含めた新規就農者数と支援策は。

答 倉坪産業建設課長

新規就農者は五人で、その人を対象に技術指導を含めた研修を開いている。また、経営を開始する際の準備資金を助成する制度を取り入れている。



護岸工事が進む柳原

全員の了解が得られなければ着工出来ない。

いじめは

絶対ないのか

ないとは言えない

(教育長)

問

全国でいじめを苦に自殺する子供が後を絶たない。その子供たちは家庭や学校で必ずシグナルを出していると言われる。



教育長

町内の学校でいじめは絶対ないと言えるのか。また、この問題の対策や、スクールカウンセラーの活動状況は。

答 教育長

いじめは絶対ないとは言い切れないが、ちよつとした子供のシグナルも見逃さないように、教職員が互いに連携しあうことにしている。アンケートを実施したり、小学校では日誌、中学校では自殺に関する文を書くことでいじめ防止対策の一つになっていると思う。

スクールカウンセラーは男女一人ずつで、月曜と金曜日に中学校を拠点に実施している。

交付税減額 今後の行財政運営は

問

国は十九年度から地方交付税を十四兆円以内に抑えて行きたいと言っている。減額されると地方はますます苦しくなってくる。来年度において活力ある町づくりをどのように進めて行くのか。

答 戸川参事

十九年度の交付税

については全く不透明であり、ハード事業による地域の活性化は難しいので、補助金を活用したソフト面での事業になる。特に地域興しグループとか、自主防災組織などに力を入れて行きたい。



戸川参事

過疎法の継続を

国に強く要望していく（町長）

大西一司 議員



問 過疎地域自立促進特別措置法が平成二十一年度で失効する。過疎地域である勝浦町は七十%の補助がある過疎債を、防災無線やケーブルテレビ事業に活用している。過疎債に依存する本町にとつては財政運営上なくてはならない重要な制度だ。継続を強く国に働きかけべきだ。

答 町長 この制度なくしては生活基盤の整備も進まない。他の過疎町村と連携を図り、県と十分協議して国に強く要望して行きたい。

なくなるのか 果樹試験場

県は調査検討中

（町長）

問

県は農業試験場や農業大学校、林業試験場等を石井町に整備統合する計画を立てているが、西岡の果樹試験場も対象となっている。跡地利用等を含めた今後の計画は。

答 町長

平成十九年までに調査検討し、二十二年に着手する方針と聞いているが具体的には何も決まっていない。

跡地についても白紙の状態であるとのことだ。今後県との協議の場で本町としての意見を具申して行きたい。



町長

誘致企業に 税の優遇策を

問

過疎対策の特効薬は企業誘致だが、不利な立地条件では難しい。過疎地域に法人税の傾斜課税制度を導入できれば誘致はしやすくなる。この制度を實現できるように取り組んでほしい。

答 町長

知事も前向きな発言をしているので本町としても内容を十分検討し、国や県に要望して行きたい。

有能な教員の確保を

問

教員の異動等に教育長の役割は重要だ。不登校やいじめ問題がある中で有能な教員の確保が不可欠だと思うが。

答 教育長

有能な人材を確保して子供たちがさらに成長出来るような人事に取り組んで行きたい。

鳥獣被害

今年度の状況と対策は

問

鳥獣被害がさらに増えている。今年度の状況と対策は。

答 倉坪産業建設課長

被害額は把握出来ていないが、捕獲頭数はサル十頭、イノシシ三十九頭、シカ八頭などである。

報償金の支払い方法や単価の見直しを検討している。捕獲時期については猟友会と協議し対応して行きたい。



統合計画が進む果樹研究所

地籍調査

棚野地区の完了は

平成二十一年度までには

(産業建設課長)

西浜勝己議員



問

地籍調査に着手して三年目を迎えたが、棚野地区と町全域の完了の見通しは。

また、昨年測量が完了した大谷地区の閲覧がまだ出ていない。職員不足による影響ではないのか。

答

倉坪産業建設課長

棚野地区は平成二十一年度までに完了したいと考えて

いる。全町完了は全く見通しが立たない。

答 町長

大谷地区は測量完了後も閲覧出来ないが、地元の要望にこたえられるように職員の配置等も考えたい。

南部農免道路

県に対する働きかけは

働きかけは

問

南部農免道路は部分採択を余儀なくされてきた。町長は就任以来どのような働きかけをしたのか。

答 町長

予算確保と未採択部分千五百六十mの採択に向け県の



南部農免道路完成に向け働きかけを

担当者申し入れを行っているが、予算的に厳しい状況である。今後も早期完成を目指して要望して行きたい。

ごみ処理問題

小松島市との話し合いの状況は

話し合いの状況は

問

ごみ処理について小松島市との話し合いの状況と、立川地区への対応は。



松田住民課長

答 松田住民課長

十九年四月から外部委託出来るように、来年早々には搬入方法や委託金額を煮詰め、小松島市が民間委託かを決定したい。

答 町長

小松島市の地元協議が進行中で、良い方向に進んでいると聞く。クリーンセンターの解体や道路問題などは立川地区と十分に協議しながら対応して行きたい。

新年度予算

中田町政の特色は

問

来年度予算は三十億程度とのことだが、予算編成に向けて中田町政の特色をどのように反映させるのか。

答 町長

私にとって初めでの予算編成になる。大きなハード事業もやってみたいが、現状では無駄な事業を削減して新たなソフト事業に取り組みたい。

自主防災組織を順次整備しながら全町的な防災訓練を実施したい。また、糖尿病ゼロ作戦や情報通信網の活用を目的とした予算も計上して行きたい。

保育料の負担軽減を

第三子を無料に（町長）

井出美智子 議員



区分けも多くして出来る限り不公平感のないような見直しとなっている。

また、保健予防活動と町立病院との連携が弱く、機能を生かされていけないのではないかと。今後、勝浦病院を保健予防活動の拠点として、町民の健康増進を図るべきではないか。

問

基本健診の受診率が近隣の市町村の中で一番低くなっているが、どこに問題があるのか。

答

受診率が低いのは対象者の把握が十分でないためである。今後、的確に把握して受診率向上に努めたい。

町長

平成十九年四月以降に「健

診への取り組みの会」を予定しており、特定健康指導実施計画の策定作業の中で十分協議して行きたいと考えている。



岩佐福祉課長

答 岩佐福祉課長

保健予防活動
拠点に勝浦病院を

安心して通える
学校に

学校に

問

いじめの実態把握はどのようになっているのか。また、これからの対策は。

答 教育長

実態の把握については無記名アンケートを小・中

インターネット
接続のスピードが遅い

学校で実施し、小学校では日記を、中学校では以前から意見箱を設置するなど取り組んでいる。今のいじめは陰湿で見えにくくなってきているが、教員を中心にネットワークを張り巡らせて、子供の行動をチェックして行きたい。

また、教育相談室を活用して保護者や児童、生徒が気軽に相談出来るよう充実に努めて行きたい。

問

今までよりもインターネットへの接続スピードが遅くなったと不満の声が上がっている。いつ解決出来るのか。せっかく導入した事業を町民に喜ばれるものにする必要があるのでは。

答 戸川参事

時期は明示できないが、企業の責任において解決してもらおう。各地区の説明会で、サービス提供業者から十分説明している。

問

公約の柱である子育て支援策の中で、九月議会で検討すると言っていた第三子の保育料の無料化についての考えは。

また、保育料の基準額の見直しは低所得者を考慮したものになっているのか。

答 町長

第三子の四、五歳児を対象

に無料にしたい。基準額改定については、



第3子の4、5歳児の保育料が無料に

元気が一番

野菜作りが大好き



武田 福美さん（中角）
明治44年6月1日生（満95歳）

Q 毎日のように過ごしていますか
A 野菜作りが大好きなので、年中畑に出かけています。秋にはみかん採りを手伝うなど、気ままにしています。



Q 苦しかったことや悲しかったことは。
A 結婚して六年目に夫が病死し、姑も二

年後に他界して二人の娘をかかえて途方に暮れていました。周りの人たちの親切や励ましで頑張ることができました。戦後の何も無かった時代に娘を女学校に行かせるために、いろいろ苦勞がありました。

Q 思い出に残る出来事は。
A ジェーン台風で堤防が欠壊し、収穫前の田が土砂に埋まり、毎日親類や

Q 長生きの秘けつは
A 無理をしないで体合った仕事をし、何でも食べ、よく眠ることです。

近所の人たちに手伝ってもらった事は忘れられません。

Q 最近の楽しみは
A 四季折々の野菜を作らうのが何よりの楽しみです。

Q 思い出に残る出来事は。
A ジェーン台風で堤防が欠壊し、収穫前の田が土砂に埋まり、毎日親類や



昭和15年ごろ 娘2人と

編集後記

歳月が過ぎるのは早いもので「議会だよりかつら」も発刊から十年になりました。

この間、五人の委員の心を一つにして編集に携われた事を誇りに思うと同時に感慨深いものがあります。

十年前に比べ勝浦町の財政や、農業、商工業などの状況もますます厳しくなり、衰退が目に見えるようになって来ました。

「いきいきした町づくりをめざして」との議会だよりのキャッチフレーズがむなしく感じられます。

もっともっと若い人たちが住み、子供たちの声が響く活力ある町にするため「議員として何か出来る事は」と模索しながら、何の打開策も見いだせないままに時が流れ、自分の無力さとその責任を痛感しています。今年が議会の改選期、新陳代謝の年です。新たな発想で町の活性化に取り組む議員の台頭に期待しています。

（義昭）

